

第三十九回 宗像歌会

平成二十七年十一月二十一日(土)

自由詠

熟れた柿は  
夕日の色  
記憶の底に漂う  
窓の灯りの  
温かな色

玉田 久美子

題詠『期待』

期待に胸を  
膨らませた事は  
幾度かあった  
でも肝心のこの胸は  
ちっとも膨らまなかった

松本 晴美

報復が  
報復を呼ぶ  
戦争という  
むごたらしさ  
誰もが 知っているはずなのに

宮島 かつえ

目が 目が  
針のようにつきささる  
視線を集める  
視線がいたい  
私に。そそがれる目

宮島 かつえ

木は  
むずがゆい  
蝶も ひらひら  
風も ひらひら  
枝くすぐられて

岡本 まさ子

少々の努力では  
叶わない  
期待した数値  
下がらず 上がっていた  
悪玉コレステロール あらら

大槻 幸子

紅葉の美しさを思い  
見上げる  
楓の大大木  
友の庭に  
秋の日射し降り注ぐ

高原 美智子

雨天続きで  
洗濯物  
日々増えてゆく  
晴れてほしい  
期待 切実

杉本 明美

期待をすれば  
不満が募る  
自分を鍛え  
自立を目指す  
厄介者にならないように

山本 香代